

〔実践報告〕

英国における臨地実習支援システムの調査報告 - プリマス大学と病院の連携

黒田久美子¹ 田所 良之² 田澤 敦代³ 菅原 聡美³

Investigative report about regarding the support system for clinical nursing practicum in England
- Collaboration between University of Plymouth and NHS trust hospitals

Kuroda Kumiko¹, Yoshiyuki Tadokoro², Tazawa Atsuyo³, Sugawara Satomi³

要 旨

臨地実習に関する大学と病院の互恵的連携を検討する基礎資料を得るために、プリマス大学で展開されているCEPPL (Center for Excellence in Professional Placement Learning)、その一貫である看護実習支援システムの調査を実施した。臨地における看護実習に関しては、一定の基準をクリアする質保証のシステムのもと、大学と臨地機関がお互いに一緒に教育の質を高めていく考えかたに変わってきており、全体的で幅広い戦略的な支援システムのあり方が模索され、臨地で実際に学生指導する看護職を支援するために所属の異なる看護職が参加するPDT (Placement Development Team) を中心とした支援システムが構築されていた。

Key Words : 臨地実習、臨床実践能力、プリマス大学、実習支援体制

I. 目 的

より質の高い看護の提供が求められている現在、看護師の実践能力向上に向けた看護基礎教育、特に臨地における教育方法や体制の検討が望まれている¹⁾。そのような背景から、筆者らは、以前、そのための基礎資料を得るために英国におけるLecturer Practitioner (以下LPと略す)の役割とシステムの現状について調査を行い、日本における適用について検討した²⁾。その結果、LPは、大学と臨床施設の両方の組織から雇用されており、理論と実践が統合されたきわめて看護実践能力の高い看護職であり、両者の組織の現状をよく理解し、そこでの裁量権をもち、かつ時間を確保できることによって、十分に教育活動を実践していることがわかった。またLPのいるメリットとして、①大学と病院の関係の強化、②理論と実践が統合された学生への教育、③実習での患者へのメリッ

ト、④現場感のある研究の実践、⑤病院における継続教育へのメリットの5つが示唆された。このことは、臨地実習に関連するシステムが看護基礎教育の効果をめざすだけにとどまらず、ひいては大学と病院の互恵的連携を検討することにも繋がる可能性を示唆していた。

教育と実践の相乗的な質向上を目指すとともに、実践と有機的に関連した研究の推進に向けた看護学教育機関と保健医療機関の効果的な連携は、ユニフィケーション、コラボレーションと称される活動として、米国で1960年代以降本格的に開始されてきた³⁾。この「連携」を表す用語としてのユニフィケーションは、看護学教育機関と保健医療機関が同一の設置主体、管理、予算の下に運営され、同一の看護職が学生への教育と患者・クライアントへの看護実践の両方に責任をもつことに特徴があり、コラボレーションは、看護学教育機関と保健医療機関が異なる設置主体、管理、予算の下に運営されるとともに、同一の看護職が両機関に併任することに特徴がある。どちらも同一の看護職が、実質的には看護学教育における学生の教育と保健医療機関における看護実践に携わるという点が共通している⁴⁾。我が国では1970年代以降に報告がみられ、1990年代には設置主体を同一とする県立大学等のユニフィケーションで大学看護

1 千葉大学看護学部附属看護実践研究指導センターケア開発研究部

2 千葉大学看護学部老人看護学教育研究分野

3 千葉大学医学部附属病院看護部

1 The center for Education and Research in Nursing Practice, School of Nursing, Chiba University

2 Department of Gerontological Nursing, School of Nursing, Chiba University

3 Chiba University Hospital

学部と病院看護部の両方に役割をもつ看護職が存在している^{5) 6)}。

筆者らが調査した英国におけるLPシステムは、設置主体、管理、予算の異なる2つの機関の両方に雇用されている併任者に焦点があるコラボレーションといえる取組みであった。調査の結果、看護学教育機関と保健医療機関の両方において役割を果たす看護職の存在の利点や成果、そして一人の看護職が複数の組織において多様な役割を担うことに伴うフラストレーションやバーンアウト、昇進条件充足に向けての葛藤、労働過重、時間の不足という課題についてはこれまでのユニフィケーションやコラボレーションについて述べられた多くの文献^{7) 8)}が示す内容と同様であったが、LPが臨床の看護職のキャリアアップの1つのポジションとして認識されており、米国のユニフィケーションでの併任者の多くが修士以上の教育背景を有する状況とは異なっていた。米国ほど修士以上の教育背景をもつ看護職が臨床に存在しない我が国においては、両機関の連携を考える際に英国のLPシステムから学ぶ点が多いと考えられた。

本学の大学病院における臨地実習では、臨床講師の制度を平成18年4月から開始している。これは、看護学部の教員（教授あるいは准教授）が推薦した看護職者に実習指導担当者を担ってもらうシステムである。英国LPの調査結果にもあるように、実践能力の高い看護師に臨床講師としてある程度責任や裁量が任される立場で時間をとって指導にあたってもらうことで、学生の臨地における学習支援の向上を目指したものである。看護学部臨床講師となることができる者は、「看護師、助産師又は保健師のいずれかの免許を有し、かつ、臨床経験5年以上又は修士以上の学位を有し、人格的に優れ、臨床能力及び教育上の能力があると認められたもの」（千葉大学看護学部臨床講師称号付与規定第6条）とされているが、臨床講師の制度はまだ開始されたばかりであり、大学と病院の相互的連携をも視野に入れての検討がこれから必要である。

筆者らは、当初、引き続き英国のLPシステムについて参考にしたいと考えていたが、一方、LPシステムを実践していた英国のプリマス大学では、大変少人数でLP個人の能力の影響が大きいLPのシステムを中止して、あらたにCEPPL（Center for Excellence in Professional Placement Learning）において、新しいシステムを展開していた。そこで、LPシステムから新しいシステムに変えたその理由を含め、臨地実習に関する大学

と病院の相互的連携の検討に向けた資料を得るために、併任者をおかないプリマス大学における臨地における看護実習支援システムについて調査を実施した。

Ⅱ. 方 法

2008年1月24日から1月25日の2日間に渡って、CEPPL関係者とのミーティング及び実習病院の視察を行った。24日は、ExeterでPDT(Placement Development Team)メンバーとのディスカッション及び実習病院の視察、25日はPlymouthでプリマス大学CEPPL推進者とのディスカッションを行った。

1. CEPPL関係者とのミーティング

CEPPLにおいて主要な役割を担っている大学側メンバー及び、CEPPLのもとでの臨床実習支援に携わっている臨床側メンバーとのミーティングにより情報提供を受けた。また、千葉大学看護学部の大学病院実習での状況等を渡英メンバー4名（著者）が説明し、ディスカッションを行った。そのテーマの概要等を以下に示す。尚、【】内に各ミーティングにおける英国側参加者を示した。ミーティングに要した時間は、以下の1)～3)それぞれに2～4時間程度である。

1) CEPPL全体の概要説明と可能な国際協働的な取り組みについて

（【Dr. Susan Lea（:CEPPLディレクター）、Dr. Williamson】）

2) PDT(Placement Development Team)が行っている臨床実習支援の実際について

（【PDTメンバー（: Dr. Williamson, NHS trust・臨床側メンバー4名）】）

3) CEPPLにおけるのDevelopment Activity取り組みの紹介いくつかの例

（【以下の各Development Activityリーダー（及びメンバー）】）

- ・ Assessment in Practice
- ・ Monitoring and Enhancing the Placement Learning Technology
- ・ Evaluating Interprofessional Development and Education
- ・ Theory focused practice

2. NHS(National Health Service)NHS trust病院の視察

NHS trust病院で、プリマス大学の学生の実習病院でもある、Royal Devon and Exeter Hospital (Barrack Road, Exeter, Devon, EX2 5DW)の中の実習施設を、PDTメンバーであるDr.

Williamson及びNHS trust・臨床側メンバー4名)の案内紹介のもと視察した。

Ⅲ. 調査結果

1. CEPPLの概要

CEPPL(Center for Excellence in Professional Placement Learning)⁹⁾は、プリマス大学が、英国のThe Higher Education Funding Council for England (HEFCE) による大型の競争的資金を獲得してできた拠点であり、学生、教育者、サービス使用者にとって、実践の場における学習がより効果的となることを使命としている。CEPPL開始前、臨地実習の際、実習の受け入れ先が学生を受け入れる体制が整っているか、ある程度の水準を満たしているかどうかを確認する責任は大学側にあった。そこでプリマス大学では、実習の場における教育の質を保証し、監視していくことをテーマに研究拠点を立ち上げることで資金を獲得した。筆者らの訪問時は2年目の活動を展開していた。活動は、社会保障の分野が先行していて、臨地で学生に直接指導するmentorになる人の教育(質保証)のシステムや教育モジュールの作成などについてすでに実施しており、看護を含む他のsocial and healthのすべての領域で実施していく予定にしていた。

資金申請の頃、ちょうど英国の健康省の外郭団体Skills for Healthが、臨地実習に関する水準、規定を導入したいと考えている時期であり、英国全体の方針にも合致していた。全国的な監査システムは2008年開始の予定であり、プリマス大学では一歩先んじて研究的に取り組んでいる。Dr. Williamsonは、「それまでは大学側が臨地に条件を要求していたが、現在は、大学も臨地のどちらも満たさなければならない水準をもち、お互いに一緒に水準を高めることによって、教育の質を高めていく考えかたに変わってきている。」と述べていた。尚、現在、Skills for Health¹⁰⁾は、EQuIP(Enhancing Quality in Partnership)という新しい基準をつくり、大学だけでなく臨地の施設や学習者、さらには、サービスユーザーとのパートナーシップという考え方を強調している。Dr. Williamsonが責任者となっている、Monitoring and Enhancing the Placement Learning TechnologyのDevelopment Activityでは、この考えに基づいた活動によってexcellent practiceの発見やPDT(Placement Development Team)による学生の実習支援を行っている。

PDT(Placement Development Team)は、

CEPPLの活動の一貫として発足したチームで、プリマス大学だけに存在する。PDTは、多様な所属、立場の専門職者がチームで構成され、臨地で実際に学生に指導にあたる指導者へ支援し、また大学と臨地を結ぶ役割を担っている。詳細は後で述べる。

尚、2008年3月現在、CEPPLでは図1に示す9つのテーマのDevelopment Activityをもち、活動を実践している(2007年1月の筆者らの訪英時には、Rethinking Interprofessional Education and DevelopmentはEvaluating Interprofessional Education and Development、Monitoring and Enhancing the Placement Learning ContextはMonitoring and Enhancing the Placement Learning Technologyであった)。

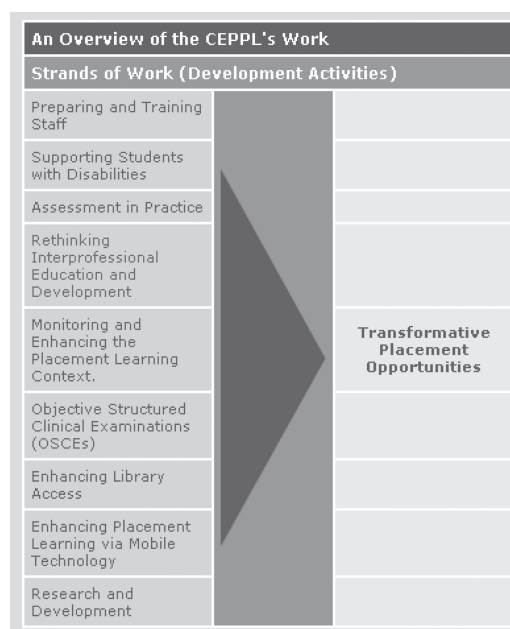


図1 CEPPLの概要 (<http://www.placementlearning.org/>より)

2. LP制度中止の経緯と新たなシステムへの期待

LP制度の中止には、政府からの資金がなくなったことが大きく影響しており、中止せざるを得ない状況があった。しかし一方で、今までのLP制度の評価から抽出された課題もあり、プリマス大学ではCEPPLにおいて新たなシステムを構築した。Dr. WilliamsonはLP制度の課題に対応させて、新しいシステムとLP制度の主要な相違について、以下のように説明されていた。1つは、素晴らしい成果をあげていた領域や部門がある一方で、困難がみられた部門もあるなど、臨地実習におけるLP導入の成果は個々のLPの看護実践能力におうところが大きく、これを平均的に成果があげられるような仕組みにしたいということであった。2つめは、個々のLPが専門の分野に入り込んで少

人数の学生と実践を展開していたことは学生への支援という点ではよかったが、学生支援にとどまらず、もっと全体に渡るより幅広い戦略的な立場で活動いろいろ仕事ができるような仕組みにしたい ということであった。

3. PDT (Placement Development Team) を中心とした臨地における看護実習支援

英国では、医療機関のほとんどがNational Health Service (以下NHSと略す) により運営されており、学生が実習に行く病院や地域は、NHS trustという日本でいう第3セクターのような医療・保健サービス提供機関に所属している。プリマス大学の教員は実習期間中あまり臨地に行くことがなく、学生に実際に支援するのは主に臨地の看護職者である。学生の実習先の病院や地域の看護職者は個々のtrustに雇用されている。

1) PDTの構成

PDTは、大学、trustなどの所属先の異なるメンバーから構成されるチームで、臨地で実際に学生に指導にあたる看護職者への支援や、大学とtrustの連携をチェックしたり、連携を促進し繋ぐ役割を担っている。PDTを構成する主要なメンバーは、病院の看護管理者(師長)、リーダーナース、大学の教員(複数の部門からメンバーが出ている)、エデュケーション・コーディネータであり、プリマス大学とRoyal Devon and Exeter病院のPDT(図2)は33名のエデュケーション・コーディネータ、約10名の大学教員、約10～15名の看護師長で構成されていた。エデュケーション・コーディネータは各trustに必ず1人は配置されており、学生の実習配置のコーディネートを担当し、trustに籍を置きながら大学やNHS Strategic Health

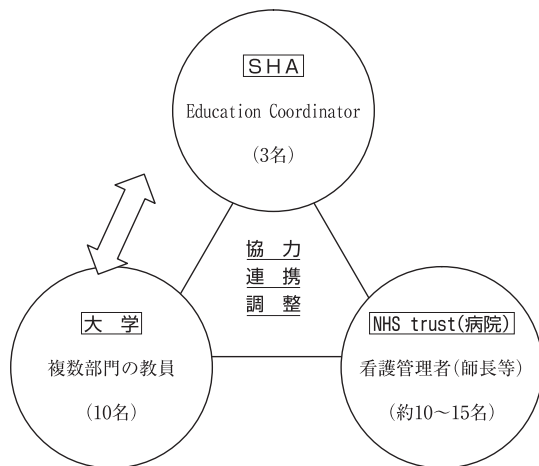


図2 PDTの構成 (Plymouth大学とRoyal Devon and Exeter病院の例)

Authority(以下、SHAと略す。NHSの1組織であり、健康省によって出されている方針の指示・監督に責任をもつ地域ごとに設けられた機関)でも仕事をしている。Ms.Coppは、エデュケーション・コーディネータとして臨地をラウンドしてこの病院で学生の誰を引き受けてもらうべきかなどをアセスメントしており、現在、英国では国全体としてIPE (Interprofessional Education) を推進したい意向があるので、その可能性などもアセスメントしていると述べていた。PDTは、学生の実習配置について話し合う場としての機能ももち、trust側からは実習受け入れ可能な人数、大学からは実習希望人数などを会議の場に提出し、最終的にどの学生がどのtrustで実習を実施するかについて話し合い決定する。

筆者らの訪問時は、「PDTが発足してまだ2ヶ月の時期であり、裁量権や分担についてはこれからの検討課題である」とCEPPLのディレクターであるDr. Susan Leaは述べていた。PDTの主要な役割は、学生に直接指導するmentorとなる臨地の看護職者に学生の情報を伝え、支援することである。この時点では活動実績が少なく、チーム運営における課題等はまだ確認することはできなかった。しかし、臨地の看護職者が指導にあたる時間を捻出することが難しいという状況は日本と同様であり、今後、PDTチームがそのような問題をどのように解決していくかを実践しながら研究していく予定であると述べていた。

2) 実習に関わる臨床ナースの基準

通常、mentorとなる臨床ナースは、グレードの5あるいは6以上の能力が必要で、学生の可否に関われるsign off mentorにはさらに経験が必要とされている。学生の実習評価は、3-way meetingと呼ばれ、学生、臨床ナース、教員の3者で学年の終わりの7月に実施している。すべてのmentorがこの評価ミーティングに参加できるわけではなく、最終的にsign offできる(学生の実習の可否に関われる) mentorだけである。経験を積み、Nursing and Midwifery Councilの提示している基準を用いて自分自身の評価を2回以上経験し、その基準をクリアしている者がsign off mentorになるシステムとなっている。

3) 臨地実習における学生の学習や実習の支援

さらに実習においては、10～12週の理論的な講義に続けて10～12週の臨地実習をするというコースで、講義で学んだことが臨地の現場で学んだこととどのようにリンクしているのか、12週間の実習の中で2日間を使って、そのリンクを学生自身

が探求し発表することで、理論と実践のギャップを埋めるプログラムが組まれていた。これは、Theory focused practiceと言われ、1年目の実習では一部だが、2年目の実習では全ての実習において用いられていると、このプログラムの担当者であるMs.McEwingとMs.Carterが説明してくれた。

実習支援のシステムとして、他には、大学と臨床をつなぐeducation linkという役割をなるべく各病棟に1人ずつ配置し、学生の問題について話し合う窓口担当者を明確にしている。各trustには必ずEducation linkが存在しており、PDTがサポートはしているが、基本的には各病棟の看護管理者がスーパーバイザーである。またCEPPLにおいてはモバイル機器を用いた学習支援方法を研究的に取り組んでおり、大学教員とmentorとのコミュニケーションにもモバイル機器が活用されている。

IV. 考 察

LPシステムでは、大学と臨床施設の両方の組織に併任する看護職者による教育活動に特徴があったが、新たなシステムでは併任者をおかず、以下の特徴があった。1つは、学生の実習指導にあたる臨床の看護職を支援する支援チームである。チームは学生支援にあたる看護職を支援することを目的にしており、チームメンバーには大学の教員、病院の管理者だけでなく、地域ごとに配置されているエデュケーション・コーディネータも含んでいた。臨床で実習指導にあたる看護師が困難と感じる事柄の多くが、管理や調整の問題を含んでおり、そのことによって学生が実習で経験できる内容を限定してしまう現実もある。大学の教員だけでなく、看護管理の立場から、また組織全体、地域全体を視野に入れた調整活動を主たる役割とする看護職が構成メンバーに入ることによって、個々の看護師、個々の病棟レベルだけでなく、組織全体や地域全体の情報が集まり、問題解決が多角的に図られる可能性があると考えられる。今後、このようなチームが、実際の実習指導にあたる看護職をどのように支援し解決していくか、その過程、成果の報告を待ちたい。そして、このチームのエッセンスを、「実習指導者を支援する多角的な問題解決をはかる場」としてとらえれば、本学でもチームを設けられるのではないかと考える。

もう1つの大きな特徴は、実習の質保証のために大学と臨床が各々に基準をもつことである。お互いに一緒に水準を高めることによって、教育の質を高めていくという考え方には学ばべきところ

が多い。国で共通する内容まではいかなくても、看護学教育機関と保健医療機関の間で検討されるべき事柄と考える。

教育機関と保健医療機関がこの基準を設定する作業を一緒に行うことを通して、お互いの課題が認識され、互恵的連携をどのように模索できるかを検討できるのではないかとと思われる。そして、さらに学生に関わる看護師がこの基準をクリアすることを1つのキャリアのステップとしたり、ラダーの1つの要素として取り入れることも可能なのではないかと考えられた。

また、大学の教育においては、臨床実習とのリンクを意識しており、教育方法の自己点検の際の視点の1つとできると考える。

V. 結 論

プリマス大学では、以前実施していた大学と臨床施設の両方の組織から雇用され学生の実習指導にあたるLPのシステムを中止した。それは個々のLPの看護実践能力に頼るのではなく平均的な成果をあげること、組織的で戦略的な活動が可能なシステムにしたいという理由からであった。

新たな看護実習支援システムでは、大学、trustなどの所属先の異なるメンバーから構成されるチームが臨床で実際に学生に指導にあたる看護職者への支援や、大学とtrustの連携のチェック、連携を促進し繋ぐ役割を担っていた。また学生に関わる看護職の基準を定め教育の質の担保をしていた。大学の教育においては、臨床実習とのリンクを意識した授業が展開されていた。

引用文献

- 1) 厚生労働省：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書。平成19年、2007。
- 2) 黒田久美子，清水安子，田所良之：英国におけるLecturer Practitionerの役割とシステムの現状。千葉大学看護学部紀要，28，45-49，2006。
- 3) 亀岡智美，竹尾恵子：米国における看護実践・教育・研究のユニフィケーションに関する文献の概観。国立看護大学校紀要，2(1)，2-9，2003
- 4) 飯野京子，亀岡智美，松山友子，工藤快枝，長尾信子，石岡明子，渡辺輝子，竹尾恵子：海外における看護学教育機関と保健医療機関の連携に関する研究の現状。国立看護大学校紀要，2(1)，10-16，2003
- 5) 新道幸恵：看護におけるユニフィケーション。看護，54(4)，31-40，2002

- 6) 小松美穂子：大学附属病院でのユニフィケーションを实践して. 臨床看護, 29(8), 1179-1185, 2003
- 7) 前掲3)
- 8) 前掲4)

- 9) CEPPLホームページ：
<http://www.plymouth.ac.uk/cetl/placement>
- 10) Skills for Healthホームページ：
<http://www.skillsforhealth.org.uk/page/>